

## English Garden 第39話

"Out of loneliness Arises the self we never knew."  
Nancy Wood

「孤独から わたしの知らないわたしが立ち上がる」  
ナンシー・ウッド

前回に続きナンシー・ウッドの "Moon Dancing" からで、1月の詩 "Alive Alone" (独りで生きる)の一部です。1月は「孤独」(solitude)の月とされ、詩人はこの前書きとなる「瞑想」の部分で、まわりの大地が眠っているときに自分の人生の蓄えをしておこうと呼びかけています。「新しい年は新しい始まりであり、新しい始まりは古い過ちを埋める好機」であるからです。



Alive Alone  
We are all alive alone.  
Neither friend nor lover  
Child nor mother  
Can light our way for very long.  
Out of loneliness  
Arises the self we never knew.  
Out of fear  
Comes the wisdom of our ancestors.  
Out of impatience  
Grows the persistence of old age.  
These shadows of our memory  
Create new pathways to the soul  
So that in being alive alone  
We become alive together.

わたしたちはみな独りで生きている。友達も恋人も  
子供も母も 行く道を長く照らしてはくれない。  
孤独から わたしの知らないわたしが立ち上がる。  
恐れから 祖先の叡知がやってくる。  
性急さから 老年の粘り強さが育つ。  
これら記憶の陰が 魂に通じる新しい道を造り  
それによってわたしたちは 独りで生きることで共に生きる。  
(井上篤夫訳)

アメリカ先住民は、幼いときから独りで瞑想し、祈ることを教えられてきました。それは自分を見つめ、自然の精霊と語りあう大切な時であったのです。そして、多くの部族で、少年期から青年期にかけてのある期間、完全な孤独に耐えて修行することが重要な行事とされてきました。

「瞑想」の中で詩人はさらに、私たちが毎日考えもせずに行っている日常の事柄について、立ち止まって考え、新しい発見をするようにと勧めています。

Solitude opens all the closed doors, even those nailed shut.  
孤独は、閉ざされたドアをみな開いてくれる。たとえ釘付けになっているものでも

新しいことを始める勇氣は誰にも備わっている、とナンシーは語っています。